

ふげん道路ピット東法面中段スケッチ原図の記事欄 (No.1126-追36, 1126-追37) を修正

従前

見直し後

第1099回審査会合

資料1-4

調査データのトレーサビリティの確認結果

(その他の調査データの変更箇所と元となるデータ式)

4-271頁

第1099回審査会合 資料1-4に追記(青太枠)

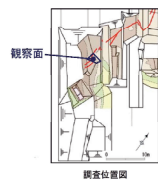
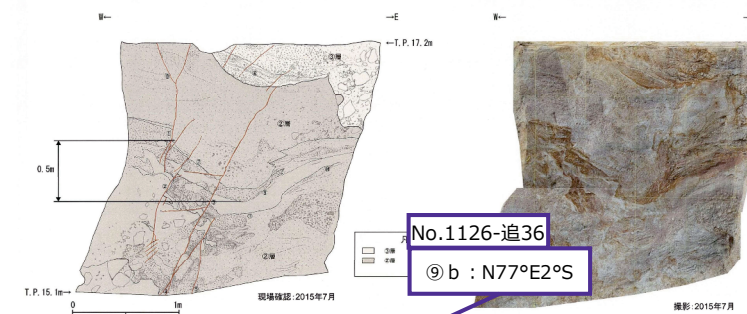
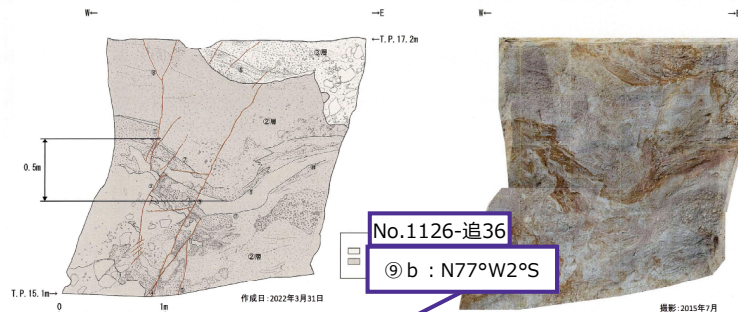
K断層の性状(ふげん道路ピット)

154, 155 : ②層, ③層の色調修正

修正後

・K断層は数条に分岐しており, ②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。

・ふげん道路ピットでは, K断層は数条に分岐しており, ふげん道路ピットの中央付近まで連続していることが確認でき, ②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.5mである。



- ① f: N25° W75° W
- ② f: N25° E75° W
- ③ f: N44° W62° W
- ④ f: N25° E75° W
- ⑤ f: N1° W70° W
- f: 断層面
- b: 層理面

- ㊸ b: N75° W39° E
- ㊸ b: N20° W70° E
- ㊸ b: N25° E75° W
- ㊸ b: N77° W2° S
- ㊸ b: N47° E21° SE

③層: 砂礫 にふい黄褐色~黄灰色(10YR7/4~2.5Y6/1) 礫は径20mm以下の角~亜角礫主体である。礫率30~50% 基質は中粒砂~粗粒砂であり, 局所的に悪い。 塊状じり砂 黄灰色~黄褐色を呈する。砂は細粒砂~粗粒砂であり, 径5~50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟んで分布する。

②層: 緑~シルト混じり砂 灰白色~灰黄色(2.5Y7/1~2.5Y7/2) 粗粒砂~粗粒砂からなり, 径40mmの花崗岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

③層: 砂礫 にふい黄褐色~黄灰色(10YR7/4~2.5Y6/1) 礫は径20mm以下の角~亜角礫主体である。礫率30~50% 基質は中粒砂~粗粒砂であり, 局所的に悪い。 塊状じり砂 黄灰色~黄褐色を呈する。砂は細粒砂~粗粒砂であり, 径5~50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟んで分布する。

②層: 緑~シルト混じり砂 灰白色~灰黄色(2.5Y7/1~2.5Y7/2) 粗粒砂~粗粒砂からなり, 径40mmの花崗岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

- ① f: N25° W75° W
- ② f: N25° E75° W
- ③ f: N44° W62° W
- ④ f: N25° E75° W
- ⑤ f: N1° W70° W
- f: 断層面
- b: 層理面

- ㊸ b: N75° W39° E
- ㊸ b: N20° W70° E
- ㊸ b: N25° E75° W
- ㊸ b: N77° E2° S
- ㊸ b: N47° W21° SE
- ㊸ b: N5° W10° W

③層: 砂礫 にふい黄褐色~黄灰色(10YR7/4~2.5Y6/1) 礫は径20mm以下の角~亜角礫主体である。礫率30~50% 基質は中粒砂~粗粒砂であり, 局所的に悪い。 塊状じり砂 黄灰色~黄褐色を呈する。砂は細粒砂~粗粒砂であり, 径5~50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟んで分布する。

②層: 緑~シルト混じり砂 灰白色~灰黄色(2.5Y7/1~2.5Y7/2) 粗粒砂~粗粒砂からなり, 径40mmの花崗岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

③層: 砂礫 にふい黄褐色~黄灰色(10YR7/4~2.5Y6/1) 礫は径20mm以下の角~亜角礫主体である。礫率30~50% 基質は中粒砂~粗粒砂であり, 局所的に悪い。 塊状じり砂 黄灰色~黄褐色を呈する。砂は細粒砂~粗粒砂であり, 径5~50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟んで分布する。

②層: 緑~シルト混じり砂 灰白色~灰黄色(2.5Y7/1~2.5Y7/2) 粗粒砂~粗粒砂からなり, 径40mmの花崗岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

第7.4.4.102図(1) K断層 ピット調査結果(ふげん道路ピット) (その1)

## 添付資料 3

### ③最新活動面認定方法の見直しに伴う変更等について

- 今回補正書において、先行プラントの審査実績等を踏まえて最新活動面認定方法の見直し※を行った結果、変更等となった箇所についてとりまとめた。

※従来の肉眼観察(必要に応じてCT観察)による最新活動面の認定方法を見直し、美浜発電所、志賀原子力発電所の審査においても取り入れられている方法(CTによる破砕部観察、薄片の顕微鏡観察による確認等、マクロからミクロにかけての情報を収集して認定する方法)を採用した。

- また、最新活動面認定方法の見直しに伴い実施したCT観察において、破砕部範囲を見直した箇所についても合わせて取りまとめた。
- 次頁以降に上記に伴うデータ取得により従前提示していたデータから変更となる箇所(38箇所)の一覧を示す。

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表(最新活動面の認定方法の見直し関連)

No.	対象			項目	従前のデータ	変更後	変更等の理由	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度							
最-1	H24-B'-1	7.50	10.93	最新活動面位置	7.91m	7.90m	最新活動面認定方法の見直しにより、最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 6
最-2	H24-H-6-1	9.58	14.36	最新活動面位置	細粒部の上端	細粒部の下端 (深度差1cm未満のため写真上の矢印のみ変更)	最新活動面認定方法の見直しにより、最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 14
最-3	H24-D1-1	45.91	48.28	破砕帯範囲	45.91~48.28m	45.91~45.94m	当該破砕部は、複数のせん断面が見られるため、CT画像を用いて破砕部範囲を見直した結果に変更する。	変更	破砕部検討結果	添3 - 22
最-4	H24-D1-1	45.91	45.94	破砕部番号	①	①-1	①破砕部から抽出した3つの破砕部のうち一番浅い箇所であるため、①-1とした。	副次的変更 (No.最-3に伴うもの)	-	添3 - 22
-	H24-D1-1	45.91	45.94	最新活動面位置		45.94m	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	走向・傾斜		N12W   79W	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	破砕幅		3.0cm	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	断層ガウジ・断層角礫の有無(肉眼)		無	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	断層ガウジ・断層角礫の有無(薄片)		無	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	断層ガウジ・断層角礫の有無(総合)		無	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	断層ガウジ・断層角礫の幅		—	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造		—	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	条線		37L	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	45.91	45.94	変位センス		正   左	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
最-5	H24-D1-1	45.91	48.28	破砕帯範囲	45.91~48.28m	46.30~46.45m	当該破砕部は、複数のせん断面が見られるため、CT画像を用いて破砕部範囲を見直した結果に変更する。	変更	破砕部検討結果	添3 - 22
最-6	H24-D1-1	46.30	46.45	破砕部番号	①	①-2	①破砕部から抽出した3つの破砕部のうち浅部から2番目であるため、①-2とした。	副次的変更 (No.最-5に伴うもの)	-	添3 - 22
-	H24-D1-1	46.30	46.45	最新活動面位置		46.45m	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	走向・傾斜		N57E   33NW	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	破砕幅		14.1	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	断層ガウジ・断層角礫の有無(肉眼)		無	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	断層ガウジ・断層角礫の有無(薄片)		無	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	断層ガウジ・断層角礫の有無(総合)		無	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	断層ガウジ・断層角礫の幅		—	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造		—	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	条線		81R	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
-	H24-D1-1	46.30	46.45	変位センス		正   —	新たに破砕部として認定したことから新規取得した。	-	-	-
最-7	H24-D1-1	45.91	48.28	破砕帯範囲	45.91~48.28m	47.64~47.75m	当該破砕部は、複数のせん断面が見られるため、CT画像を用いて破砕部範囲を見直した結果に変更する。	変更	破砕部検討結果	添3 - 22
最-8	H24-D1-1	47.64	47.75	破砕部番号	①	①-3	①破砕部から抽出した3つの破砕部のうち一番深い箇所であるため、①-3とした。	副次的変更 (No.最-7に伴うもの)	-	添3 - 22

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表(最新活動面の認定方法の見直し関連)

No.	対象			項目	従前のデータ		変更後		変更等の理由	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度									
最-9	H24-D1-1	47.64	47.75	破碎幅	233.4cm		10.8cm		破碎帯範囲の変更に伴い、破碎幅を再計測した値に変更する。	副次的変更 (No.最-7に伴うもの)	破碎幅計測結果	添3 - 22
最-10	H24-D1-1	60.12	60.15	最新活動面位置	60.12m		60.15m		最新活動面認定方法の見直しにより、最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 36
最-11	H24-D1-1	60.12	60.15	断層ガウジの幅	0.1cm		0.2cm		破碎部中にある2箇所の断層ガウジの幅の合計値に変更した。	変更	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添3 - 36
最-12	H24-D1-1	68.84	69.00	破碎帯範囲	68.84~69.00m	68.84~69.20m		69.00m~69.20mについて、粘土脈が認められることからCT画像を用いて破碎帯範囲を変更した。	変更	破碎帯検討結果	添3 - 45	
最-13	H24-D1-1	68.84	69.20	最新活動面位置	68.93m		69.06m		破碎帯範囲の変更に伴い、最新活動面を改めて実施した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-12に伴うもの)	最新活動面確認結果	添3 - 45
最-14	H24-D1-1	68.84	69.20	走向・傾斜	N31W	72NE	N61W	83N	最新活動面の変更に伴い、走向・傾斜を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-13に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添3 - 45
最-15	H24-D1-1	68.84	69.20	破碎幅	6.9cm		20.6cm		破碎帯範囲の変更に伴い、破碎幅を再計測した値に変更した。	副次的変更 (No.最-12に伴うもの)	破碎幅計測結果	添3 - 45
最-16	H24-D1-1	68.84	69.20	断層ガウジの特徴の有無(肉眼)	無		有		変更後の破碎帯範囲に断層ガウジの特徴があることを確認した。	副次的変更 (No.最-12に伴うもの)	コア詳細観察結果	添3 - 45
最-17	H24-D1-1	68.84	69.20	断層ガウジ・断層角礫の幅	—		0.1cm		変更後の最新活動面沿いの断層ガウジの幅の計測値に変更した。	副次的変更 (No.最-16に伴うもの)	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	添3 - 45
最-18	H24-D1-1	68.84	69.20	最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造	—		無		変更後の最新活動面沿いの断層ガウジに対する観察結果に変更した。	副次的変更 (No.最-16に伴うもの)	明瞭なせん断構造・変形構造の確認結果	添3 - 45
最-19	H24-D1-1	68.84	69.20	条線	85L		7R		変更後の最新活動面で取得した条線に変更した。	副次的変更 (No.最-13に伴うもの)	条線観察結果	添3 - 45
最-20	H24-D1-1	68.84	69.20	変位センス	逆	—	—	左	最新活動面の変更に伴い、再作製した薄片による観察結果に変更した。	副次的変更 (No.最-13に伴うもの)	薄片観察結果	添3 - 45
最-21	H27-B-1	44.53	44.83	最新活動面位置	44.66m		44.68m		最新活動面認定方法の見直しにより、最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 71
最-22	H27-B-1	45.36	45.39	最新活動面位置	細粒部の下端	細粒部の上端 (深度差1cm未満のため写真上の矢印のみ変更)		最新活動面認定方法の見直しにより、最新活動面を変更した。		変更	最新活動面確認結果	添3 - 79
最-23	H27-B-1	74.36	74.50	最新活動面位置	74.40m		74.36m		最新活動面認定方法の見直しにより、最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 87
最-24	H27-B-1	74.36	74.50	走向・傾斜	N41W	66W	N15E	85W	最新活動面の変更に伴い、走向・傾斜を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-23に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添3 - 87
最-25	H27-B-1	74.36	74.50	条線	52R		54R		最新活動面の変更に伴い、条線を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-23に伴うもの)	条線観察結果	添3 - 87
最-26	H27-B-1	74.36	74.50	変位センス	薄片試料を再作製した結果に変更		最新活動面の変更に伴い、薄片試料を再作製し観察した結果に変更した。なお、変位センスについては、第1099回審査会合で提示した左ずれ正断層センスであった。		副次的変更 (No.最-23に伴うもの)	薄片観察結果	添3 - 87	

K断層の連続性評価に関するデータ:トレーサビリティの確保に伴う変更箇所等一覧表(最新活動面の認定方法の見直し関連)

No.	対象			項目	従前のデータ		変更後		変更等の理由	分類	エビデンス資料	記載頁
	確認箇所	上端深度	下端深度									
最-27	H27-B-2	120.63	120.65	最新活動面位置	幅狭いオリーブ灰色部の下端		幅狭いオリーブ灰色部の上端 (深度差1cm未満のため写真上の矢印のみ変更)		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 100
最-28	H24-D1-2	12.38	12.97	最新活動面位置	12.86m		12.87m		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 108
最-29	H24-D1-2	12.38	12.97	走向・傾斜	N14W	70W	N11W	75W	最新活動面の変更に伴い, 走向・傾斜を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-27に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添3 - 108
最-30	H24-D1-3	34.23	34.52	最新活動面位置	断層ガウジの下端		断層ガウジの上端 (深度差1cm未満のため写真上の矢印のみ変更)		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 118
最-31	H27-B-4'	23.97	24.42	最新活動面位置	24.24m		24.25m		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 127
最-32	H27-B-4	108.44	108.71	最新活動面位置	108.44m		108.71m		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 136
最-33	H27-B-4	108.44	108.71	走向・傾斜	N20E	87E	N39E	80SE	最新活動面の変更に伴い, 走向・傾斜を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-31に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添3 - 136
最-34	H27-B-4	108.44	108.71	条線	5L		22L		最新活動面の変更に伴い, 条線を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-31に伴うもの)	条線観察結果	添3 - 136
最-35	H24-D1-5	10.19	10.21	最新活動面位置	10.21m		10.20m		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 153
最-36	H24-D1-5	10.19	10.21	走向・傾斜	N12E	78W	N14E	77W	最新活動面の変更に伴い, 走向・傾斜を再取得した結果に変更した。	副次的変更 (No.最-35に伴うもの)	走向・傾斜確認結果	添3 - 153
最-37	H24-D1-5	47.47	47.89	最新活動面位置	ガウジの上端		ガウジの下端 (深度差1cm未満のため写真上の矢印のみ変更)		最新活動面認定方法の見直しにより, 最新活動面を変更した。	変更	最新活動面確認結果	添3 - 163

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・最新活動面の深度を7.90mに変更（No.最-1）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-1）

b 最新活動面の深度を「7.90m」に変更（No.最-1）（ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし）

c ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-1）

H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

従前

第833回審査会合  
机上配布資料2  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について  
参考資料2 性状一覧表  
参考2-46頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

3. K断層

性状一覧表(4/12)

断層名	層位	深度 (m)	下層深度 (m)	走向	傾斜 (度)	長さ (m)	開口幅 (m)	破砕帯内			貫入	変位	性状
								破砕帯 幅 (m)	破砕帯 厚さ (m)	破砕帯 性状			
H24-B'-1 (確認済)		7.50	10.93	N128W	88W	242.5	1.0	有	非平滑	SSL	左	破砕 破砕部 破砕部 破砕部	
													7
H24-B'-1 (確認済)		12.42	13.21	N46E	73W	52.3	0.3	有	非平滑	70R	-	破砕 破砕部 破砕部	
													12
H24-B'-1 (調査)		0.02	5.98	N208W	60W	10.3	2.5	有	非平滑	70R	-	破砕 破砕部 破砕部	
													6
H24-B'-1 (調査)		0.02	N208W	62W	-	-	-	-	20R	-	-	破砕 破砕部 破砕部	
													0
H24-B'-1 (確認済)		1.17	7.50	N5E	69W	18.4	0.3	無	-	90L	右	破砕 破砕部 破砕部	
													7

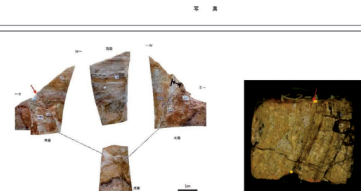


【破砕帯】  
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、  
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部  
の合計を指し、破砕部のある破砕帯の真の幅に該当した。  
【平滑さ】  
平滑：最新活動面が厚積的なもの  
非平滑：最新活動面が薄積的なもの

参考2-46

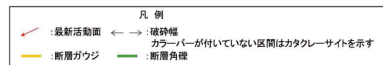
見直し後

断層名	層位	深度 (m)	下層深度 (m)	走向	傾斜 (度)	長さ (m)	開口幅 (m)	破砕帯内			貫入	変位	性状
								破砕帯 幅 (m)	破砕帯 厚さ (m)	破砕帯 性状			
H24-B'-1 (確認済)		7.50	10.93	N128W	88W	242.5	1.0	有	非平滑	SSL	左	破砕 破砕部 破砕部	
													7
H24-B'-1 (調査)		0.02	5.98	N208W	60W	10.3	2.5	有	非平滑	70R	-	破砕 破砕部 破砕部	
													6
H24-B'-1 (調査)		0.02	N208W	62W	-	-	-	-	20R	-	-	破砕 破砕部 破砕部	
													0
H24-B'-1 (確認済)		1.17	7.50	N5E	69W	18.4	0.3	無	-	90L	右	破砕 破砕部 破砕部	
													7



No.最-1

(赤矢印位置)



※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「—」を記載  
※2 赤い鉛筆の印は、針跡を確認した箇所を記載  
※3 卓越しない成分については「—」を記載(両成分「—」は薄片観察を行っていない箇所)  
-(上記以外)：データ取得していない箇所

第7.4.4.411図(3) 破砕部性状一覽 (K断層)

6-7-1578



H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-53頁

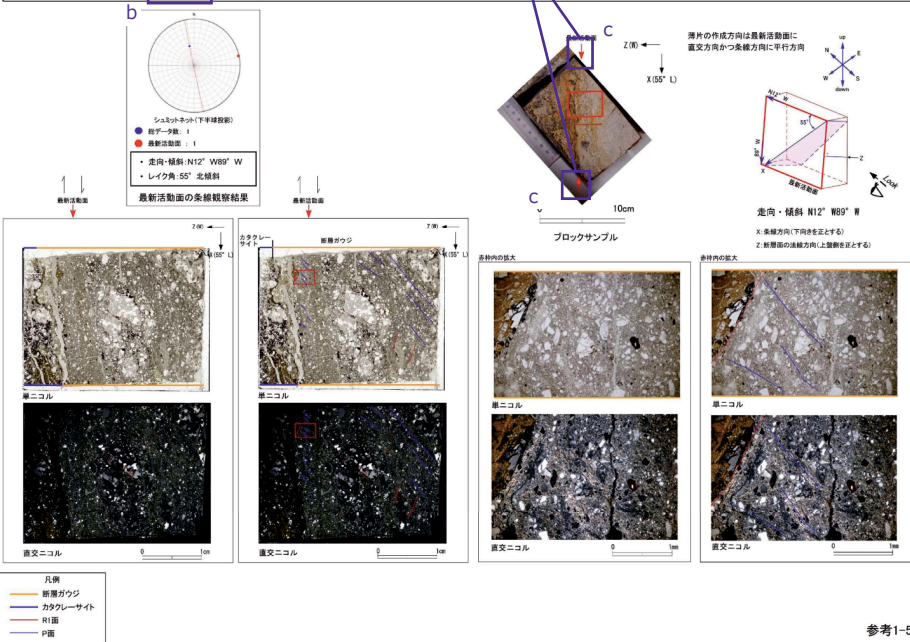
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.最-1  
深度7.91m

No.最-1  
(赤矢印位置)

K断層 薄片試料観察(H24-B'-1 深度7.91m)

H24-B'-1のボーリングコア(深度7.91m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。

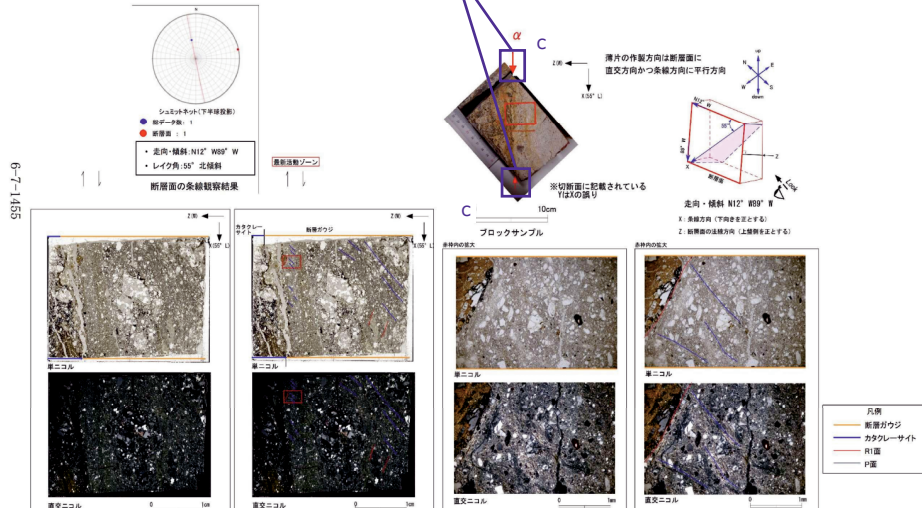


No.最-1  
(フォーム見直しにより数値の記載なし)

No.最-1  
(赤矢印位置)

・H24-B'-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。  
・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められ、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。  
・(断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
・(断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。  
・岩片は少ない。  
・(カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

※断層面αは最新活動面



第7.4.4.380図 (5) K断層 破砕部性状 H24-B'-1 深度7.50~10.93m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

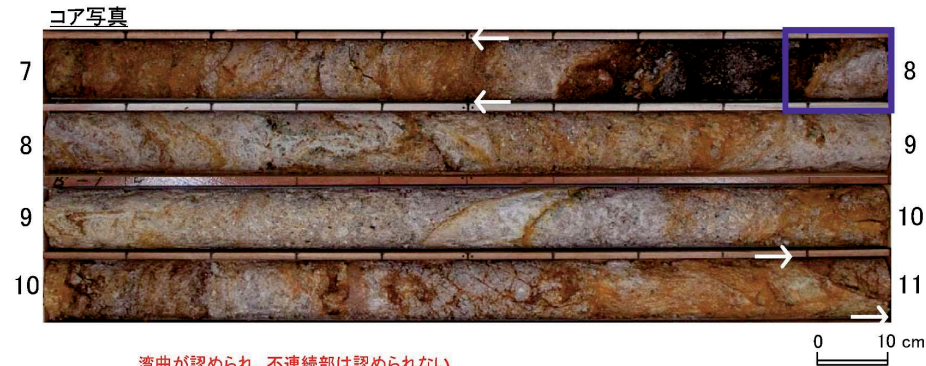
- 変更後の最新活動面認定方法によると、H24-B'-1深度7.50~10.93m の破砕部における最新活動面は7.90mの断層面であるため最新活動面深度を変更した。

H24-B'-1 深度7.50~10.93m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ボーリングコア観察において、深度7.90mに断層面 $\alpha$ 、深度7.91mに断層面 $\beta$ が認められる。
- 断層面 $\alpha$ は大きく湾曲し直線性に乏しい。不連続部が認められず、連続性に富む。
- 断層面 $\beta$ は大きく湾曲し直線性に乏しい。不連続部が認められず、連続性に富む。

破砕部性状の記事

- 7.50~10.93m:破砕部(K断層)
- 7.50~7.90m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
- 上端傾斜不明、下端45°、径2~20mmの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように幅1~3mmの白色粘土脈が分布する。7.70m以深ではマンガン鉱染が著しい。明黄褐~黒褐色を呈する。幅28cm。7.90~7.91m:粘土状破砕部(Hc-1)
- 上端45°、下端45°、径1mm前後の石英粒が点在する。にぶい黄橙色を呈する。幅6~10mm。
- 7.91~9.48m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
- 上端45°、下端71°、径10~20mmの岩片主体で、岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように白色~淡褐色~暗褐色の粘土脈が幅1~3mmで分布する。8.46mに58°の消滅しかかっている褐色風化割れ目が残留し、割れ目周辺の2~3cm間に径0.5mmの微小な黄鉄鉱が晶出している。9.30m以深に、径1~5mmのマンガング粒が点在する。浅黄橙~明黄橙~にぶい黄橙色を呈する。幅56~110cm。
- 9.48~9.58m:礫混じり粘土状破砕部(Hc-2)
- 上端70°、下端60°、白~淡黄褐色軟弱粘土と岩組織が消滅した径5~10mm花崗斑岩岩片2%程度含む。岩片も粘土化し軟質上・下端は幅1~5mmで風化により褐色化する。浅黄橙色を呈する。幅35~80mm。
- 9.58~10.93m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
- 上端60°、下端70°、10.36~10.38m スライム(コアの供回りによるもの)。10.43~10.61mに岩組織明瞭で、割れ目も残留する花崗斑岩が中石として分布する以外は、ほぼ岩組織と割れ目が消滅した岩片と岩片間の粘土化部からなる。10.61m以深では、60°前後の風化褐色割れ目の一部が残留している。10.93m、厚さ1~2mmで70°でやや波打つ褐色粘土が分布する(コア全区間に連続しない)。にぶい黄橙~明黄褐色を呈する。幅51~67cm。



湾曲が認められ、不連続部は認められない



湾曲が認められ、不連続部は認められない

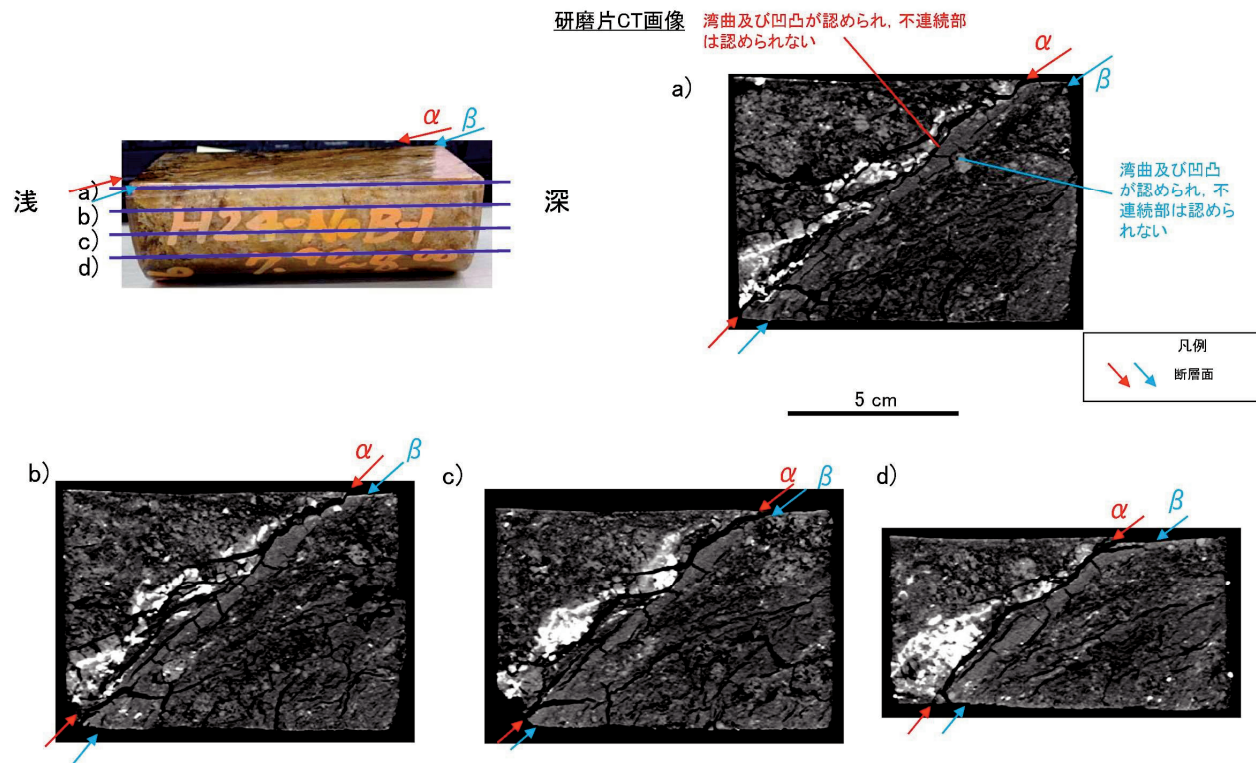
凡例  
← → 破砕部範囲※  
※:写真上は白色で記載

凡例  
↗ ↘ 断層面

H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

H24-B'-1 深度7.50~10.93m CT画像観察 断層面の認定

- CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 $\alpha$ 、断層面 $\beta$ が認められる。
- 断層面 $\alpha$ は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸がやや認められ直線性にやや富み、不連続部は認められず、連続性に富む。
- 断層面 $\beta$ は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ直線性にやや乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。



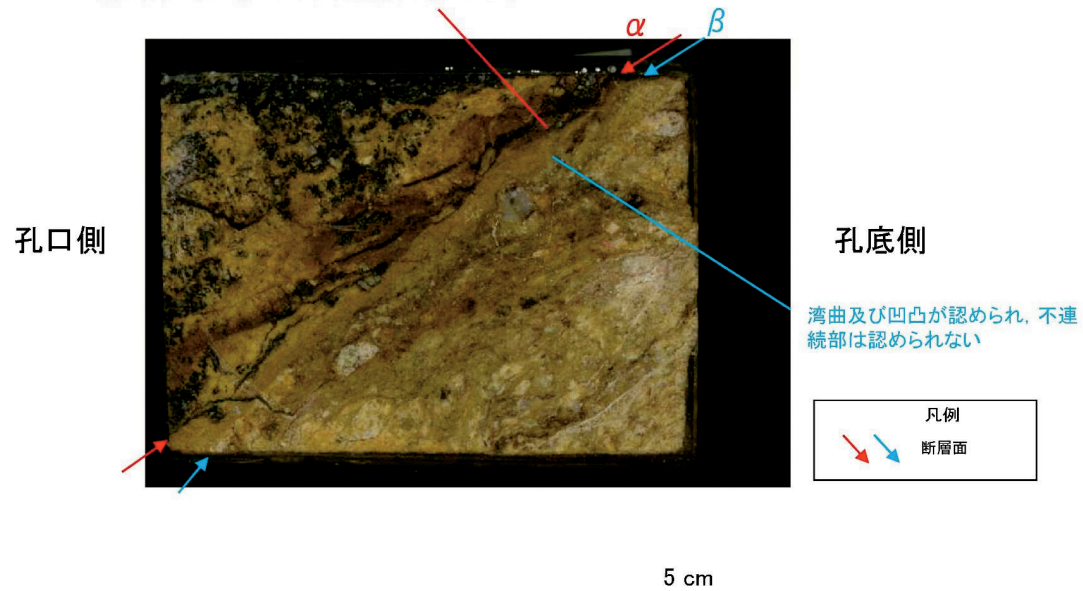
H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

## H24-B'-1 深度7.50~10.93m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 $\alpha$ 、断層面 $\beta$ が認められる。
- ・断層面 $\alpha$ は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸がやや認められ直線性にやや富み、不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 $\beta$ は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度7.90mの断層面 $\alpha$ を検討対象の断層面とした。

研磨片写真

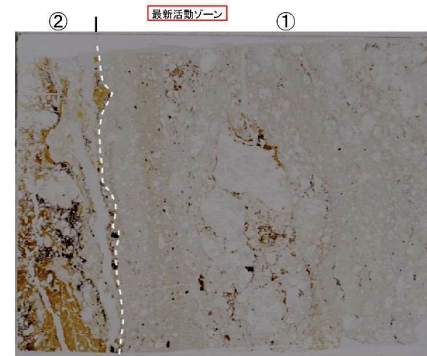
湾曲及び凹凸が認められ、不連続部は認められない



H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

H24-B'-1 深度7.50~10.93m 薄片観察 分帯

- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量は多く、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく、丸みを帯びている岩片が多い。②のゾーンよりも岩片の量は少なく、粘土鉱物が多い。
  - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は多く、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく、丸みを帯びている岩片が多い。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ①のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



Z(W) ←  
↓  
X(55° L)

単ニコル 全景写真



直交ニコル 全景写真

1cm

1cm

凡例  
----- ゾーンの境界※  
※写真上は白色又は黄色で認識